

令和4年度 特別の教育課程 自己評価

島本町立第一小学校

本町では、外国語科・外国語活動について、年に2回の教員向けアンケート及び児童向けアンケートを実施している。

第一小学校の教員アンケートでは「幼稚園から中学校3年生まで配置している外国人指導助手（ALT）と協働し、児童の英語コミュニケーションを図る基礎となる能力の育成ができています。」の肯定的回答が95%、「外国語活動について、おおよそのイメージはつかめている。」の肯定的回答が86%、「外国語活動について、児童と一緒に楽しんでいる。」の肯定的回答が81%と高い数値結果となっている。特別の教育課程によって、3～6年生の授業に加えて、1年生34時間、2年生35時間の外国語活動が実施され、教員が英語をはじめとする外国語に触れる機会が増えたこと、さらに、単元ごとの授業をALTと協働で作上げていくことで、明確なイメージをもって指導にあたることができたことが、この結果につながった。一方で、「外国語活動について、T1として主体的に授業を行うことができる。」「英語が苦手である。」は共に57%と、肯定的回答が6割を下回る結果となった。今後、教員がコミュニケーションのツールの一つとして、自信をもって英語を活用していけるようになることが、課題である。

また、児童アンケートでは、「外国語活動や英語の勉強は好きだ。」の肯定的回答が77%、「外国語活動や英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。」の肯定的回答が94.6%と、児童にとって外国語活動や英語が親しみのあるものになっていることがわかる。これに対して、「外国語活動や英語の授業では、発言や手を挙げるなど、積極的に参加している。」の肯定的回答は62%であった。学級内には、外国語の授業に限らず、自分に自信をもてず、全体の場での発言や挙手をためらう児童もいる。しかし、彼らが積極的に学びに向かっていないとは言い難く、大抵は児童同士での交流やアクティビティで積極的に参加している姿が多くみられる。学級内には、自分の思いを伝えたいと強く望む児童もいれば、相手の考えをもっと知りたいと感じ、静かに傾聴している児童もいる。教員が大切にしたいことは、児童が英語に親しみ、互いにコミュニケーションを図ろうとする姿を尊重すること、そして、将来、児童が社会に出たときに役立つ力を育成していくことである。

このように、特別の教育課程で取り組んだことが、「中学3年生時には英検3級相当以上の英語力を有する生徒が80.1%」という結果へつながり、全国平均47.0%（大阪府平均47.4%）を大きく上回った。これは、前述の教員アンケート結果で見受けられるように、保育所・幼稚園からの体験活動を始めとする、小中9年間の連続した学びとコミュニケーション力の育成が意識されたカリキュラム、それを実施できる十分な授業時数を土台に、それらを児童と一緒に楽しむことのできる教員とALTの姿があったからこそその成果だと言える。